

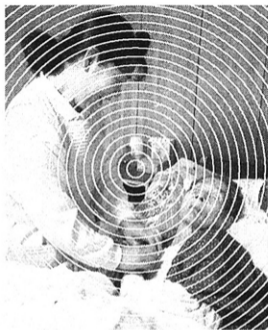
有料老人ホームが低価格競争に突入している。

業界大手「ワタミの介護」が運営する「レストヴィラ上溝」（相模原市）は、入居一時金が一律380万円と安いのがウリ。現地見学会を連日開催し、家族連れでにぎわっている。

「ワタミが同じ相模原市で運営するホームの一時金が、580万～880万円ですから、半額に値下げした格好。月額利用料も約18万3000円で、比較的リーズナブルです」（介護誌編集者）

利用者にとっては朗報だが、業者側は危機感いっぱい。なにしろ、東急電鉄や京王電鉄などの老人ホーム参入が相次いでいるほか、利用者側も「サービスキ付き高齢者住宅」や「介護付きケアハウス」など施設を選択で

## いい老人ホームは納豆でわかる



きるようになってきている。

最大手のニチイ学館も背に腹は代えられず、一部施設の入居一時金を最大3分の1、約23万円だった月額料金を19万円台に値下げしたほどだ。

全国有料老人ホーム協会によると、入居一時金の平均予算は少し前は約1530万円だったが、「最近では500万円以下を希望する層が増えている」（前出の編集者）という。

もっとも、安かろう悪かろうではないけない。失敗しない選び方を全国介護者支援協議会理事長の上原喜光氏がこう言う。

「いい老人ホームは、朝食の納豆を見れば分かります。しょうゆとカラシのほか、ネギや大根おろし、青シソや海苔などが並んでいけば完璧です。また、トイレを見る。ここの清掃が行き届いていることが大事です」

料金が安くなったことで選択の余地が増えた。環境を優先するのか、家族との距離を選ぶのか、希望を明確にすることだ。